

Q ボディーランゲージで気をつけることはありますか？

A 【ワンポイント・アドバイス】

外国人との会話でボディーランゲージ（非言語コミュニケーションのひとつ。身振りや手振りを使って相手に伝えたいメッセージを表現する手段）は、文化や習慣の違いによっては、別の意味に解釈されることや、誤解されることがありますので、注意しましょう。

【解説】

国によって別の意味に解釈されたり誤解されたりする可能性のあるボディーランゲージの例を紹介します。

1. お金のサイン

日本人は、親指と人差し指で円を作り、お金または「OK」の意味を表しますが、欧米の多くの国では「OK」という意味になりますし、フランスでは「ゼロ」の意味になります。ドイツでは、親指と人差し指をすりあわせることによって、お金を意味するとのことです。

2. 手招き

米国でのさようならのジェスチャーは、日本の「おいでおいで」のジェスチャーとほぼ同じです。したがって、米国人に「こちらにおいで」のサインを送ったつもりでも、相手はさようならの意味ととらえて逆に遠ざかってしまうかもしれません。

3. 自分を指し示す

日本では、自分のことを意味するときに、鼻を指さすことがありますが、米国では自分を示すときには胸のあたりを指さします。

4. 左手

イスラム圏では左手が不浄とされており、左手で料理をサーブしたり、手を使って食べる時に左手を使ったり、ものを受け渡したりすることは、マナー違反に当たります。